

# 政治分野における男女共同参画推進について法改正の意義と 推進のための地方議会の役割

中央大学名誉教授 広岡守穂

はじめに

政治分野における男女共同参画の推進に関する法律について

1. なぜ今、地方自治に女性の参画が必要か  
民意を正しく反映させるため。とはいえ・・・  
地方議会になにができるか。
2. ワークショップ（参画の方法その１）  
男女共同参画推進基本計画  
まちづくりの住民説明会
3. 無作為抽出法（参画の方法その２）  
構想日本の自分ごと化会議
4. 傾聴（参画の方法その３）  
声を出せないひとの声を聞く
5. 参画のかたちは多様  
としま１００人女子会など
6. 社会的構築 地方議会と地方議員の役割  
男女共同参画推進基本条例の改正  
議員の存在そのものがひとの行動を変える力になる  
超党派でできることをみつけてほしい
7. 胸をはって生きる。 自分自身の生き方が地方自治を変える  
『誰だって誰かのヒーローになれる！』

# クロスロード 人生のとき

## ② 中央大教授 広岡守穂 親子2代で育児本出版

### 信頼し合う「家族」つくる

多摩川土手の上に綿雲が浮かび、空は抜けるように青かった。「すずしい」。心地よい風が吹く堤防で、広岡歩陸(17)が声を上げた。その横には父親の真生(47)と祖父の守穂(69)。日曜の午後、ジョギングや散歩の人々が行き交う中、のんびりと会話しながら広岡家の3世代が歩く。守穂は中央大法学部教授、真生は川崎市職員。そして歩陸は川崎市内の特別支援学校高等部生だ。

#### 告知

歩陸は2004年4月、真生の長男として生まれた。医師は二つの診断結果を真生に告げる。手術が必要な心疾患、もう一つがダウン症だった。

真生の中にさまざまな思いが駆け巡る。仕事

中に突然、涙が止まらなくなったことも。本を読み、周囲と話した。守穂は言った。「ダウン症の子はかわいいよ。素直で優しい子が多いよ」。多くは知的障害が伴うダウン症を、プラスに捉えた初めての言葉だった。

ただ、守穂も当初、初孫のダウン症に戸惑っていた。そんなとき、妻の立美(69)が「障害があろうとなかろうと、かけがえのない私たちの孫でしょう」。その言葉で心が定まった。2人は5人の子を育ててきた。子育ての体験と知恵に蓄積がある。立美だけではなく、子どもとの付き合い方について守穂は同時代の父親とは違っていた。

#### 元祖イクメン

守穂と立美は金沢市内の中学校で出会った。

その頃から付き合い始め、守穂が東大に、立美は富山大に進学。遠距離恋愛が続いたある日、守穂は虫垂炎で入院する。病室にいたら突然、立美が現れた。夜行列車を使つての上京。クリスマス前の頃だった。そのまま2人は一緒に暮らし始め、立美は大学を中退する。

立美に命が宿り、2人は結婚の意思を固めた

が、守穂は伝統や格式を重んじる華道家元の長男。昔ながらの家意識を持つ親に猛反対された。「中絶は選択肢にない。この子を絶対に守ろうと思いました」と守穂。1973年に駆け落ち同然で学生結婚し、その年の暮れに長男の真生が生まれた。

守穂は留年を繰り返しながら、家庭教師の掛け持ちで生計を立てた。子どもが次々に生まれ、立美は専業主婦として子育てに追われる。まだ性別による役割分担が固定化された時代、守穂も家事や育児に取り組んだ。

そんな経験を雑誌に連載、90年に「男だつて子育て」(岩波新書)として出版し大きな話題に。守穂は元祖イクメンのように言われたが、「5人の成長の観察日記のつもりだったんです」。

守穂は政治学者として、大所高所から政治を論じたり分析したりするだけではなく、生活のレベルまで目線を下ろし社会の在り方を考察。個々が自己実現できる市民社会の重要性を訴えた。男女共同参画社会の推進役でもある。守穂の政治学には、家族との関係を含めた自らの生き方が反映されていると言っている。

子育てが一段落した立美も99年から3期、石川県議として女性問題などに取り組んだ。

#### 楽しい経験

そんな家庭で育った真生は、橋大を卒業後、



広岡歩陸の絵。祖母の立美が入院していた部屋の様子を描いた

#### 時代の変化を痛感

広岡守穂の「男だつて子育て」(影響を受けた)と語る。愛で「と、真生の「誰だつて誰情深く、鋭い観察眼は確かにかのヒーローになれる」。親子共通するが、両書を読み比べる2冊の育児本の出版と、時代の変化を痛感する。30年の時を経ている。

守穂は真生を「自分と発想が似ている」と考え、真生も

ため男が仕事を休むという発想が社会にはない時代だった。真生が副題を「子育て日誌」ではなく「子育て日誌」とした点も興味深い。主役が親から子へ移行し、親は「見える」「見守る」感覚だろうか。言葉遣いにも時代が反映されている。

守穂は親への反発を起点に旧来型の「家」ではない家族のかたちをつくってきた。48年前、真生の命を妻と2人で守ったことが今につながる。歩陸が生まれたとき、真生らと遊んだ東京・練馬の児童公園が懐かしくなり見に行った。何も変わっていないようだが、樹木は育ち、枝葉が大きく茂っていた。守穂には、それが自分たちの家族のように思えた。

敬称略  
共同通信・西田勇志

#### ■ 広岡守穂の歩み

- |       |                                     |
|-------|-------------------------------------|
| 1973年 | 立美と結婚、長男の真生が生まれる                    |
| 78年   | 東大法学部を卒業、中央大法学部の助手に                 |
| 90年   | 5人の子供について書いた「男だつて子育て」を出版            |
| 2004年 | 初孫の歩陸が誕生、ダウン症と診断される                 |
| 20年   | 真生が「誰だつて誰かのヒーローになれる」を出版、親子2代で育児本を刊行 |

言叢社 10 月新刊案内

四六判並製

240 頁

定価＝

本体 1682 円＋税

ISBN978-4-86209-081-2

C0036

広岡真生 著

# 誰かだっ て誰かの 口で なれる



あゆさん



ダウン症児  
子育て日誌

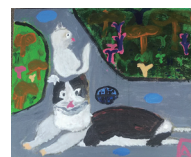
## ●父がつづるダウン症児の子育て日誌。 ゆっくりと育つ「あゆ」の歩みのなかに、 「ほんとうのこと」がある…。

あゆむは他人の感情の起伏を読み取ることが上手い。怒りや悲しみに寄り添ってくれ、ささくれ立った気持ちにもそっと手を伸ばしてくる。一緒に暮らしていると助けられたり、ほっとしたりする。いい奴だなと思う。——あゆ 16 歳。自分の人生を自分の足で歩みだしている。

★ 7 年ほど前に新型出生前検診が始った。「染色体異常判明の 96% が中絶 利用拡大」などの記事を目にするようになり、ダウン症児に関わるものとして、きちんと思いを発信するべきだと考えるようになった。(本文 1 章より)

### ★広岡真生 著者略歴

1973 年生。一橋大学卒業後、1998 年に川崎市役所入庁。生活保護や児童虐待策などの福祉分野、広報系分野に携わり、2020 年より健康福祉局で災害対策・コロナ対策を担当。ダウン症児の長男が活動するダンス教室も手伝う。3 児の父親。



### もくじ

はじめに

1 章 突入！赤ちゃんのいる世界  
生まれたときのこと  
心臓の手術  
保育園でのハンガーストライキ  
ごみ箱をひっくり返すと、そこはワンダーランド  
妻には負けない！  
肺炎で三週間の入院  
地上二センチの世界  
うんちが汚い？  
しんどい運動会  
幸せなおやつ

そして二歳になりました  
両足で立てるようになった喜び  
新型出生前検診(NIPT)に思う

2 章 ふたりの保育園児  
息子を比べるという問題  
成長過程で見えるもの、見えなくなるもの  
育休体験  
主夫の日常は不思議な感覚  
夫婦の危機を乗り切るには  
そして言葉が残った  
歩きはじめたあゆむ  
二人乗りバギーは大活躍  
仕事と職場と子育てと  
「オーツ！」の音が聞きたくて  
お絵描き進化形

お兄ちゃんはお兄ちゃん  
「アムくん好き！」な女の子  
あゆは成長していない、のか？  
「就学猶予」ってご存知ですか？  
五歳の術後健診  
叱り方、どうしてます？  
「死」を伝えたい  
ハンパな理解が笑えます  
お手伝いしたんだー  
お世話になりました  
大切な食事の時間

3 章 小学生のプライド  
美術館に行こう！  
衣食足りて親となる  
あゆのプライド  
こんなはずでは……

子どもって、役立たず！  
公平なルールってなんだろう  
心の成長  
「怒る」技術  
興奮がピンピン伝わる！  
育てさせてもらってる、のかも  
やっぱり夫婦で  
未来のキミに会いました  
お兄ちゃん、やめる……  
おかげさまで、です  
切なくなるの、まずくない？  
妻のこと  
「まあ、いっか！」広岡ひろみ

4 章 はっきり見える自己主張  
失敗でつく「力」  
ひとり暮らしへの道

春のお勉強週間  
大物、なのか？  
HAPPY な誕生日  
0 点の気持ち  
U・S・A 事件  
卓球部と友達のこと  
ダンスでもてなし  
いざ六本木へ、お仕事見学！  
高校選びは、未来の選択か  
親亡き後の自立  
とうちゃん飲み過ぎ！ しっかりしてよ(笑)  
優生思想と障害者同士の結婚・出産

おわりに

げんそうしゃ  
言叢社

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会本館 1F

電話 03(3262)4827 FAX.03(3288)3640

http://gensousha.sakura.ne.jp/

→ FAX 03-3288-3640